

経営比較分析表（平成29年度決算）

青森県 平川市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	62.57	72.30	81.79	3,065

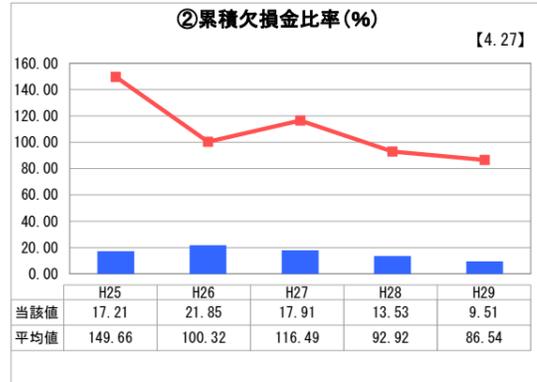
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
31,708	346.01	91.64
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
22,701	8.14	2,788.82

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

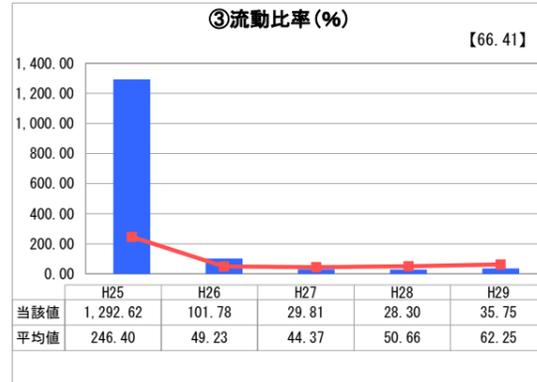
1. 経営の健全性・効率性



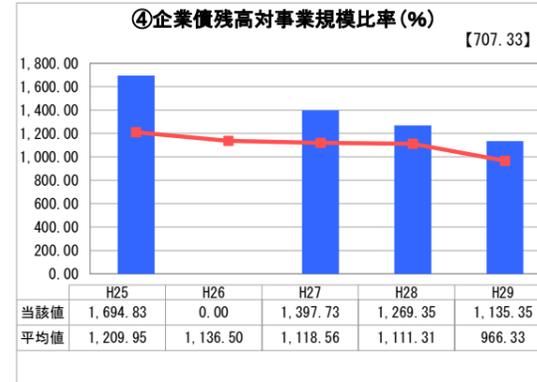
「経常損益」



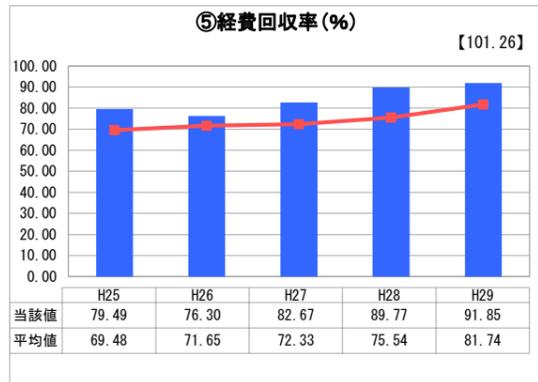
「累積欠損」



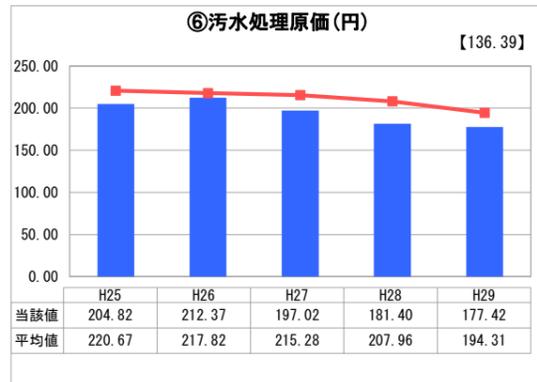
「支払能力」



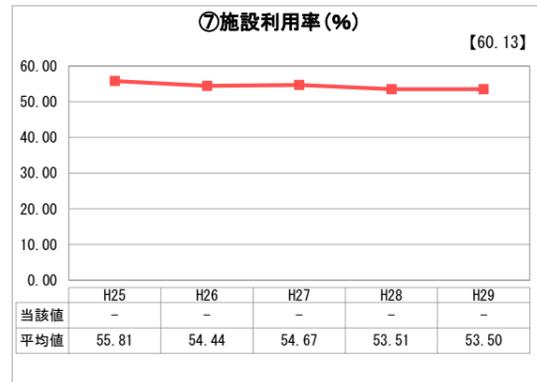
「債務残高」



「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

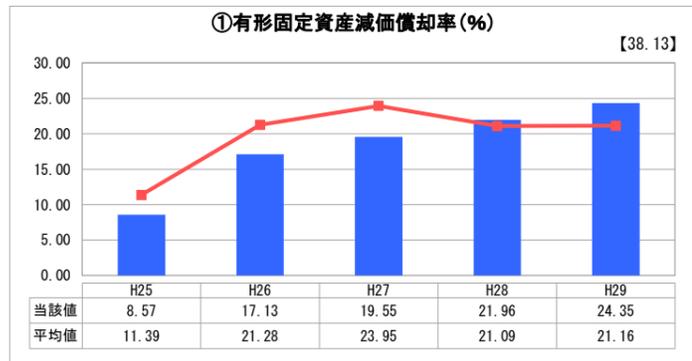


「施設の効率性」

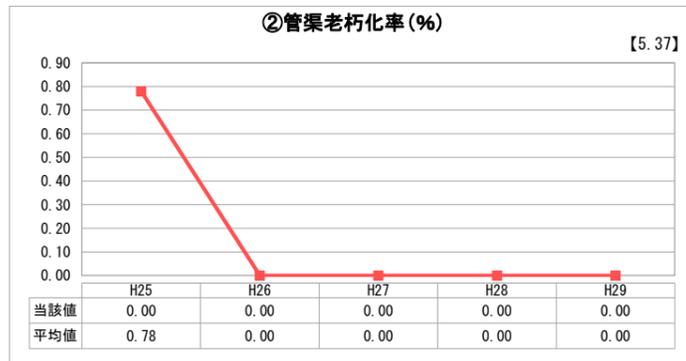


「使用料対象の捕捉」

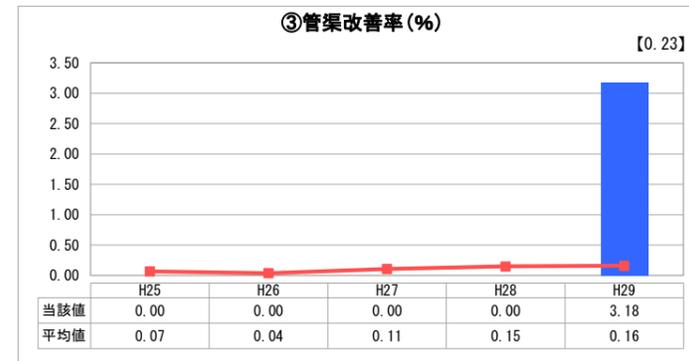
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率について、H27より100%を上回っており、僅かに黒字ではあるものの、類似団体よりは低い値となっている。そのため、累積欠損金比率は、近年少しずつではあるが、減少傾向にある。しかしながら、短期的な支払能力を表す流動比率は減少傾向にある。1年以内に支払わなければならない負債を賄えておらず、経営改善が必要である。経費回収率は、増加傾向にあるものの100%を下回っているため、使用料以外の一般会計からの繰入金で賄われている。よって、適正な使用料収入の確保やより一層の費用削減策が必要である。汚水処理原価は、類似団体よりも低く、効率的な汚水処理が実施されている。水洗化率は微増傾向ではあるものの、類似団体と比較して下回っており、公共用水域の水質保全と料金収入増加の観点から、向上へ向けた取組みが必要である。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、類似団体よりも高い値であり、年々増加傾向にあるのは、汚水ます設置分による有形固定資産減価償却が増加の原因となる。ただ、管渠老朽化率は低く、老朽化等による管渠の破損等も発生していない。計画的な点検による早期修繕を実施することで、重大な故障等を未然に防ぐ必要がある。

全体総括

人口減少による使用料の減収は、今後も避けられないため、厳しい経営状況が続くと考えられる。よって、料金の適正化、水洗化率向上へ向けた取組み、料金収入の確保など経営改善を実施する。また、計画的な点検により早期修繕を行うことで長寿命化を図り、突発的な経費が発生しないよう維持修繕、改築更新に努める。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。